

1 研究主題

きき合い、かかわり合い、学びを楽しむ子どもの育成

2 研究の具体

「きく・語る」

自己内対話を促す
「きく・語る」活動とは？
(自己理解)

- 体験と学習を重ねる中で生まれる言葉を、自分に引き付けてきき、自己を語る。



【きく・語るの様子】

「かかわり」

もの・人・ことへの「かかわり」を促す
教材開発・単元化とは？

- 児童が課題意識をもち続ける単元構想
- かかわりを深める教材開発
- 思考ツールを活用した学び合いの活性化



【かかわりの様子】

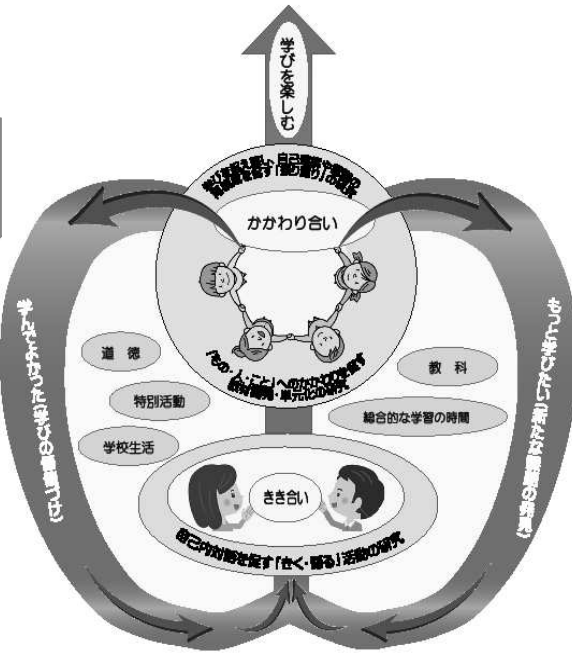
「振り返り」

学びを捉え直し、自己理解や認識の再構成を促す「振り返り」とは？

- 学習前との比較による成長の実感
- 児童自身による自己の学びの把握
- 日常生活への汎化



【振り返りの様子】



3 研究の検証及び改善の手立て

- 児童の自己評価では、「学習に興味をもって自分から進んで取り組んでいる」割合が増えた。児童の意識に沿った単元化を行うことで、主体的に学習に取り組もうとする意欲が育ってきた。
- 学び合いの場で思考ツールを活用することで、取り組むことが明確になり、学習意欲が低い児童や苦手意識のある児童も、自分の意見を伝えようとする姿が見えてきた。
- グループで一つの考えを作り上げる課題を設定することで、児童は考えをきき合い、よりよい考えを模索し、深い学びにつながった。
- 「価値ある振り返り」となるよう教師は工夫してきたが、児童自身に振り返りのよさを実感させる支援を考える必要がある。

学習に興味をもって自分から進んで取り組んでいる。(児童)

■よく □だいたい □あまり ■ぜんぜん

5月	37.0	45.0	14.7	3.3
11月	54.5	35.5	7.6	2.4

児童の意欲を引き出し、主体的な学びを促すための単元化を行っている。(教員)

■よく行っている □どちらかというで行っている □あまり行っていない ■全く行っていない

5月	43	57
11月	36	50